

V. 情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) の改良に向けて

前章で記述した、研究協力機関における情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) の活用とその成果、及び活用した教員へのアンケート調査からは、情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) がその使い方によっては、教員が目の前にいる子どもの教育実践について考えるツール、また、子どもに関わる関係者と供するツールとして機能し得ることが示唆された。現在、さらに多くの方に活用していただきやすくより質の高いものにするための改良を加えたうえで、出版化を検討しているところである。

情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) は、研究協力者・研究協力機関の他、学校教育において指導的な役割を果たし、手厚い支援を必要としている子どもたちの教育に深い知見と情熱を持っていると思われる方々若干名に配布し、意見、感想などの貴重なコメントをいただいている。この章では、まずそれらのコメント中から重要と思われるコメントを紹介し、次に改良に向けて検討している事項について概観する。

1. 情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) への協力者等からのコメント

情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」(試案) (以降、「ぱれっと」と表記) の学校現場における活用の有用性を検証する一助として、学校教育において指導的な役割を果たし、手厚い支援を必要としている子どもたちの教育に深い知見と情熱を持っていると思われる教育関係者若干名に「ぱれっと」を配布し、意見や感想等を伺ったところ、たくさんの貴重なコメントをいただいた。いただいたコメントについては研究スタッフで読み合い内容を検討した。その中から「ぱれっと」の今日的意義や今後の活用に向けて、重要と思われるコメントをカテゴリーに分けて紹介する。

(1) 新たな活用の可能性のある領域について

ここでは主に、研究協力機関の実践で紹介した以外の活用方法について記述する。

<小・中学校等での活用>

・肢体不自由学級では、初めて障害のある子どもの担任になったという人が少なくないと感じます。そのような人たちに担任として何をどのように考えたらよいかというガイドとして利用できると思います。(特別支援学校・特別支援教育コーディネーター)

・外部支援では、小・中学校で重度重複障害の子どもの担任をしている先生との連携においてそのまま紹介することもできますし、サポートする際のこちら側の資料とすることもできます。(特別支援学校・特別支援教育コーディネーター)

・数年前に、小・中学校や高等学校のコーディネーターに「困り感」に関するアンケート調査を行いました。その時の結果とこの項目がとても関連しています。特に「保護者との連携・専門機関との連携」の項は、小・中学校の先生の困り感にとっても即した内容ではないかと思います。(特別支援学校・特別支援教育コーディネーター)

<教員養成>

・特別支援教育を目指す学生教育のテキストとして使いたい。(大学保育学科 教員)

<福祉との連携>

・学校にはこれまでこのような視点が少なく、連携が難しいと感じていた。この情報パッケージがあれば、学校と福祉施設が一緒に同じ目線で考えていける。福祉施設の職員にも見せたい。(生活介護施設・施設長)

(2) 加えるべき項目について

「このような内容を加えてほしい」という要望を紹介する。

<交流及び共同学習>

・「交流及び共同学習場面における活動の展開」では、肢体不自由や重度・重複障害のある子どもの場合、学習や活動での支援方法の前に、参加のための環境を設定する段階の準備や連携がカギとなるケースが多いと考えています。(特別支援学校・特別支援教育コーディネーター)

・インクルーシブ教育に向けた「基礎的環境整備」「合理的配慮」の視点での記載、説明が加わるとより良いのでは、と思いました。今日的動向として、地域の小・中学校にも重度・重複障害のある子どもが在籍しているということもあるので。(特別支援学校・特別支援教育コーディネーター)

<自立活動との関連>

・解説の中に、自立活動の指導との関連についても触れていただければと思います。特殊教育から特別支援教育への転換は大事業でしたが、養護・訓練から自立活動への転換も大きな意識改革が必要だったことを思い出しました。(特別支援学校・校長)

<福祉サービスとの関連>

・福祉が取り組んでいる「サービス等利用計画」との整合性が必要となる。制度としても目的は異なるが、支援には共通部分も多い。また、協働して支援する必要性も多いことから、関連性についての説明があってもよいのではないかと。(特別支援学校・校長)

<卒業時のイメージ・目標>

・卒業時点の生徒像を具体的にイメージする取組があるとよい。目標設定における「学校の教育目標」との一貫性。(特別支援学校・教員)

(3) 情報パッケージ「ぱれっと」の意義・感想

その他、「ぱれっと」の意義や重要性に言及したありがたいコメントをいただいている。「ぱれっと」に込めたメッセージが伝わっていると感じられるコメントもたくさんあった。

・学校ごとに様式の異なる「個別の教育支援計画」や、市町村などがそれぞれの様式で発信している「サポートファイル」等、様式だけのツールはたくさん示されている。作成の過程や保護者関係機関との協調、そのために必要なプロセスの指針に重点を置いた情報パッケージはとてもよいと思いました。(特別支援学校・特別支援教育コーディネーター)

・パッケージ作成の意図（目指すもの）に「自立」を取り入れたことは、とても重要だと思います。自立とはよりよく生きること（Well - Being）との解説があります。また、それに続く基本的な考え方の説明は共感するばかりで、非常によくわかります。（特別支援学校・校長）

・「タテの発達」「ヨコの発達」の部分で、「ヨコの発達」の評価の視点は、障害のある子どもにとってとても大切。特別支援教育になじみのない教員は個の観点がほぼないので、これを理解することができれば、学習の組み立てがしやすくなると思います。（特別支援学校・自立活動部）

・手厚い支援が必要な子どもたちへの単なる How to ではなく、考え方（思考の流れ）が書かれていますので、手厚い支援が必要な子どもだけでなく、本質を知ってもらえる研究と感じました。（教育センター・室長）

・個別の指導計画の見直しするとき、発達の視点を前面に出す人もいる。発達も含め、トータルに子どもを見て、トータルに計画していくというスタンスを共有できるツールになればと思います。（聴覚障害特別支援学校・乳幼児相談 教員）

・生活などの広い視野に立って個に応じた指導を考えることや、どんなに重度の障害のある子どもも自立と社会参加を考え指導することが示されています。若い教員は今日の授業ばかりを考える傾向があり、指導の改善に役立ちます。（教職員研修センター・教授）

・これまでにない分かりやすい構成に感心しました。誰にでも親しみやすいことは大切なコンセプトです。（教職員研修センター・教授）

・学校現場で、キャリア教育や ICF の考え方を断片的に一部だけ取り出して行っているような状況が気になっていた。この情報パッケージではその軸となる考え方が一貫している。今、学校に足りない部分であると感じる。（特別支援学校・校長）

2. 改良に向けての検討

前述のコメントを含め、研究協力者、研究協力機関、その他関係者等から、「ぱれっと」(試案)への多数のフィードバックをいただいている。平成27年3月現在、情報パッケージ「ぱれっと」の今後の改良点として、大きく以下の9項目を検討している。

(1) 新たな項目(Ⅲ 目標設定と教育内容に関する内容)

子どもの夢や願いがあるとき、その実現を目指して、自立活動や教科等の学習活動をどのように組み立てるのか。そのプロセスについての紹介。

(2) 新たな項目(Ⅲ 目標設定と教育内容に関する内容)

手厚い支援を必要としている子どもの卒後の生活をイメージすることから始まる目標設定、教育内容の吟味。

(3) 新たな項目(Ⅴ 評価と計画の見直しに関する内容)

子どもの一番星(夢や願い)が達成できたのか、また達成するためのプロセスが適切かどうか、という視点で、評価や計画の見直しを行うこと。

(4) 新たな項目(Ⅱ 保護者との連携・専門職との連携に関する内容)

進行性の病気等で在学中になくなってしまいう子どもの「生」をどのように考えるか。

(5) 新たな項目(Ⅳ 学習活動の展開に関する内容)

交流及び共同学習場面における手厚い支援を必要としている子どもへの合理的配慮(環境設定、コミュニケーション、情報保障等)。

(6) 新たな解説

手厚い支援を必要としている子どもが、学校卒業後に生き生きと生活し、自立と社会参加をしている姿を描き、イメージを持ったうえで「このような生活を送るために学校教育においては何を行うか？」を考えさせるような解説。

(7) 新たな解説

多くの学校が陥りがちな「システム中心」の計画作成から「本人中心の計画(Person-Centered Planning)」作成へと考え方の転換が必要であること。また、そのように視点が大きく転換することがどのような意味を持つか、についての解説。

(8) 情報パッケージの体裁の検討

イラストを入れてより親しみやすくする、カラーを使う、紙質の検討、ウェブとのリンクなど、情報パッケージの体裁は重要である。使い方によって体裁も変わる。「考えることを支援するツール」として機能させることと「より便利な」情報の提供の仕方のバランスを検討する必要がある。

(9) 活用の仕方についての情報提供

研究協力機関、及びそれ以外の学校等における「ぱれっと」の活用事例の中から、「教員が考えることを支援するツール」「子どもを取り巻く関係者が共有するツール」として効果的に活用されたと考えられる事例を整理し、「ぱれっと」の内容と共にそれらの活用の仕方を提案する。